

令和6年度 事業報告書

法人の名称 特定非営利活動法人
ワーカーズ・コレクティブ
ケアびーくる

1 事業の成果

- 1) 単独では移動が困難な方々が外出することで生活の質を高められるよう、市民が持つリソースを発揮して互助の精神のもと参加型福祉の実現に務めました。
地域に不可欠なサービスの存続を図るため、参加者の拡大に努めました。

車を使つての介助付き移動サービスを福祉有償運送の制度の下で続けました。

長年要望し続けていた市主催の運転者講習会が、今年度実現しました。今一番の課題である担い手不足はすぐには解決していませんが、この講習会を受講して新たに4名がメンバーに加わりました。

新規の利用者が毎月平均11名のペースで増えるなか、動けるメンバーで何とかやりくりをしながらの活動が続いています。昨年度に比べ利用件数等は減少しましたが、メンバー拡充のための取り組み、環境整備、基盤整備強化のための取り組みなどを進めました

- リフレッシュや買物付添などの利用は、コロナ禍前と比べると減少傾向が続いています。タクシーの予約ができないなどの社会情勢、また、独居の高齢の方など新規入会が多くあり、介助付きの外出支援はますます必要とされているといえます。日々の運行管理や新規の方のコーディネート等にも細やかな配慮を求められることが多く、できる限り丁寧に対応しました。
- 昨年度見直した利用料の改定などにより、会の財政状況は安定しています。
- 限られた条件のなかで、ニーズにはできるだけ応え、年末年始も休むことなく活動しました。通院・入退院・通所・通学・ショートステイのほか、利用は以前より控えられているものの買物やリフレッシュ・墓参などの様々な依頼にも応えました。定期的な透析は年度途中で無くなりました。通学・通所の利用は続いています。
- 独居や高齢者のみの世帯など、また、抗がん治療やひきこもりだった方の久々の外出など、手厚い支援を必要とする利用者が増えています。ケアマネジャーや地域包括支援センター、市の関係部署などとの連絡を密にとり、サービスを進めました。
- 正会員は加入が5名、退会が1名で、3月末現在の会員は46名です。日々の活動の参加者は34名（内、運転会員22名）です。
- 主力メンバーが75歳の誕生日を迎え、内規に従い11月、1月、3月と相次いで3名が運転を卒業し、運転メンバー不足の厳しい状況が続きます。一方、2名が運転メンバーとして返り咲きました。
- 他の仕事などとの掛け持ちや家族の介護などのため、常時活動に参加できるメンバーは少ない状況が続いています。また、メンバーの年齢もあがってきて、腰痛などの支

障も出てきており、車いすのまま複数体制での階段の上り下りを担当できるメンバーは益々限られ、その部分は他事業所にお任せすることも増えてきました。

- 会所有の福祉車はリフト式のキャラバンが 2 台、ハイエースが 1 台、スロープ式の N-BOX が 1 台の計 4 台です。持込セダンの登録は 13 台です。
- ポール擦り事故など物損事故が 2 件ありました。

2) 利用しやすい移動サービスを実現するため、大和市・神奈川県・国との協働や他団体・他機関との連携をすすめました。

大和市とは引き続き協働事業を実施し、利用者など市民の方々に貢献しました。

- 協働事業を開始してから 21 年目（7 期の 3 年目）となりました。8 期に向けての提案も活動内容を評価される形で通りました。協働事業協定書にもとづいて、大和市からは引き続き、福祉車駐車場（4 台分）およびストレッチャー等の保管場所、負担金の提供を受けました。
- 会存続のために運転者の確保は喫緊の課題です。かねてより要望していた市主催の運転者講習会が 8 月と 11 月に開催されました。広報についても市に働きかけを続けてきました。
- 毎年 1 回の「広報やまと」への掲載は、福祉有償運送団体と運転者講習会のお知らせがあり、加えて、運転者講習会は「社協だより」にも掲載され多くの受講者の応募がありました。また、「出張！ボランティア総合案内所」でも情報提供が行われ、1 名のメンバー参加がありました。
- 大和市福祉車両利用助成事業に関する受託事業を引き続き行いました。必要に応じ、担当課との調整を行っています。
- 県立支援学校から「医療的ケア通学支援事業」対象者の打診を受け、支援体制を整えました。
関係事業者等の諸事情により年度内の利用開始はできませんでしたが、ご家族のレスパイトや社会参加も本事業の目的ととらえ、今後も通学支援の実現につなげる必要があります。
- 市が設置している「大和市地域公共交通協議会」にケアびーくるから委員として参加し、福祉の視点から交通についての意見を述べました。10 月に市役所駐車場で開催された行事「やまとの乗りものだいしゅうごう」には準備段階からかわり、当日はメンバー 10 名が参加しました。福祉車や車いすの試乗体験を行い、親子連れなど多くの来場者に福祉車や車いすを身近なものとして感じてもらえました。
- 大和市民活動センター 20 周年の記念イベントに参加しました。
- 地域福祉の充実に関しては、以下の組織やネットワークに引き続き参加し、連携しています。
 - ・コミュニティ・オブティマム福祉地域協議会 大和
 - ・神奈川ワーカーズ・コレクティブ連合会
 - ・（一社）市民連帯経済つながるかながわ（7 月～）
 - ・神奈川ワーカーズ・コレクティブ協会
 - ・（認定 NP0）かながわ福祉移動サービスネットワーク

- ・(NPO) 全国移動サービスネットワーク
- ・大和市民活動センター
- ・(社福) 大和市社会福祉協議会

3) ニーズに沿った質の高いサービスが提供できるよう介助研修や共有に努めました。

車両運行における利用会員の「安全と安心」を確保するため、安全運転と適切な運行管理に力を注ぎました。また、引き続き、感染対策に取り組みました。

ニーズにきめ細やかに対応できるよう、運行管理者、運転会員で情報共有を図っています。

常時心掛けている、利用者の「安全と安心」の確保はもとより、新型コロナやインフルエンザの感染リスクから身を守るための取り組みを引き続き実施しました。アルコール検知器についても運転メンバー全員に配布し活用しています。

- 法制度改正に従い、運行管理責任者が NASVA の「運行管理者指導講習」を受講しました。
- 車を使つての活動は、いつも神経を使います。インフルエンザ、コロナ、ノロウイルスなど、感染症は季節を問わず注意が必要です。三密を避ける、車内換気、アルコール消毒、マスク着用等の対応は引き続き行っています。メンバーの一人ひとりが緊張感を持ち、かつ利用者の方々への共感を持って活動を進めました。
- メンバーが講習会や研修に参加、あるいは Web 会議に参加し、日頃のワークに生かしました。
(安全運転講習会、学習会等)
- 運転に関して定年を定めたケアびーくるの内規に則り、73 歳の節目で 2 名が外部 (NASVA) の「運転者適性診断」を受講し、運転業務を継続しています。運転者の細則を見直しました。
- 必要に応じ、ストレッチャーやフルリクライニング車いす、スマートレストなどの扱い、福祉車両の操作や車いす固定操作の再確認、車いすからセダンへの乗り込み等々の研修を個別対応で行いました。新加入の運転会員には同乗研修を行いました。
- 福祉車走行中の車いす利用者の安全確保のため、後付けのヘッドレスト「スマートレスト」を、福祉車 4 台に備えて活用しています。
また、車いす使用時の安全のための固定ポーチと固定ベストも、必要に応じて活用しています。
- 既存の 1 台に加え、N-BOX と新キャラバンにもオールシーズンタイヤを装備し、冬季対策を強化しました。
- 運行管理は新人メンバーが 1 名増え、7 名で担当しています。日ごろから連絡を密にとり、正確な対応ができるよう努めました。
- 毎月の定例会で、安全で安心なサービス実現に向けて情報交換を行い、サービス提供に生かしました。受講した安全運転研修の内容やヒヤリハットの共有も図りました。
- 緊急時などには LINE も活用しています。

4) 今後の会の活動の存続を見据えた方策に引き続き取り組みました。

日々の活動に追われながらも、今後の会の存続を見据えて活動を進めてきました。

- 担い手拡大については、メンバーが常時、新しい仲間づくりを心がけました。担い手の拡充を図るべきところ、社会的状況として定年年齢の延長や生活のために働かなくてはならない人が多く、歩合給であるケアビーくるへの勧誘が思うようにならない状況は続きます。

今年度 75 歳で定年を迎えた運転メンバーは 3 名です。運転以外の活動には引き続き関わっています。担い手不足を解消するため、運転の定年延長を検討しましたが、安全・安心の確保を重視してメンバー拡大の取り組みを続け、定年については今まで通りとするという結論になりました。

- メンバー募集のリーフレットは運転者講習会で配布していただく等、機会を見て活用しています。簡易なチラシも会合での声掛けの時などに配布しました。メンバー募集のポスター掲示も続けています。

リーフレットなどを市民活動課、社協ボランティアセンター、市民活動センターに配架していただいています。

- FM やまもとに出演し、日ごろの活動をアピールするとともに、市主催の運転者講習会の受講を呼びかけました。この放送を聞いた方の受講申し込みもありました。
- ハイエースの更新のため日本財団の車両助成にキャラバンで応募しましたが、残念ながら叶いませんでした。
- 会所有の福祉車は、新キャラバンが 4 年目、N-BOX は 7 年目、てのひら号は 10 年目、ハイエースは 16 年目になりました。
- 福祉車に積載している車いすを 1 台更新しました。会所有の車いす 5 台にナンバリングし、管理しやすくしました。
- 昨年度改定した料金体系のもと運行管理表の一部を自動計算化することで、事務作業の効率化が図られ、運行管理者の負担が軽減されました。
- かながわ土地建物保全協会のライフフリー助成を受け、基盤強化のために活用しました。来年度も助成が決まっています。
- イオンの黄色いレシートキャンペーンの贈呈を受け、事務用品などの購入に当てました。来年度も引き続き参加します。
- 年間を通じて経費削減に努めました。
- 中・長期計画は随時見直しました。

5) 理事会と定例会を毎月開催し、参加型で問題解決をはかるとともに、研修と共育に努めました。

毎日の定期メールで情報を共有し、こまめな情報交換と問題解決に努めました。

- 理事会と定例会を毎月開催しました。保健福祉センターのほか、鶴間コミセンも借りました。定例会はメンバー相互の情報交換の場とし、日々の問題点を共有するとともに、解決に向け話し合いました。定例の第 1 水曜日のほか、参加率をより高めるため

土曜日昼間の開催も試みました。

- 定例会の議事録をメールで活動メンバー全員に送信し、情報の共有化を図っています。

6) 地域への情報提供をおこないました。

- 10 月に「ケアびーくる通信 No16」を発行し、利用会員や関係各部署に配布しました。普段のサービス以外の様々な活動をお知らせでき、好評でした。ホームページの充実やブログの更新に努めました。(ブログ更新：9 回)
- 朝日新聞の桜ヶ丘インフォメーションに広告を掲載していただきました(掲載：12 回)。これを見ての利用の申し込みもありました。
- 市主催の 2 回の運転者講習会(かながわ移動ネット)に講師の派遣と福祉車の提供を行いました。

2 事業内容

特定非営利活動に係る事業

① 外出介助等のサービス事業

ア ケア事業

- ・ 内容 通院入退院、通所通学、買い物等の外出介助および付き添いサービス
- ・ 日時 通年
- ・ 場所 大和市および隣接した市区
- ・ 従事者人員 34 人
- ・ 対象者 移動制約者 359 人(のべ利用者 3917 人)
- ・ 支出額 12,335,565 円

イ 大和市福祉車両利用助成事業に関する受託事業

- ・ 内容 大和市福祉車両所施事業対象者における外出介助及び付添サービス
- ・ 日時 通年
- ・ 場所 大和市および隣接した市区
- ・ 従事者人員 34 人
- ・ 対象者 移動制約者 71 人(のべ利用者 642 人)
- ・ 支出額 2,823,034 円

② 地域に向けて研修、啓発をはかる事業

- ・ 内容 ホームページの充実、ブログ更新(年 9 回)
新聞折り込みチラシへの広告掲載(年 12 回)
かながわ移動ネット主催、運転者講習会に講師の派遣・車両の提供
(2 回)
- ・ 日時 随時
- ・ 場所 大和市内
- ・ 従事者人員 9 人
- ・ 対象者 移動サービスを受けたことのない方および、そのご家族
ワーカーズ・コレクティブの働き方に興味のある方
- ・ 支出額 86,726 円

- ③ その他、この会の目的を達成するために必要な事業
※ 今年度はその他の事業を実施していません。